

事例番号:340093

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第一部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

経産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 39 週 1 日

0:10 陣痛発来のため入院

#### 4) 分娩経過

妊娠 39 週 1 日

1:08 胎児心拍数低下と判断し、子宮底圧迫法実施し経膈分娩

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:39 週 1 日

(2) 出生時体重:2900g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.36、BE -2.8mmol/L

(4) Apgar スコア:生後 1 分 8 点、生後 5 分 9 点

(5) 新生児蘇生:実施なし

(6) 診断等:

生後 4 日 退院

1 歳 0 ヶ月 座位保持不能

1 歳 2 ヶ月 つかまり立ちできず、下肢伸展位

(7) 頭部画像所見:

1 歳 3 ヶ月 頭部 MRI で先天性の脳障害を認めず、脳室拡大や大脳基底核・

視床に明らかな信号異常を認めない

## 6) 診療体制等に関する情報

- (1) 施設区分: 病院
- (2) 関わった医療スタッフの数  
医師: 産科医 2 名、小児科医 1 名  
看護スタッフ: 助産師 2 名、看護師 1 名

## 2. 脳性麻痺発症の原因

脳性麻痺発症の原因を解明することが極めて困難な事例であり、原因は不明である。

## 3. 臨床経過に関する医学的評価 (2020 年 4 月改定の表現を使用)

### 1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

### 2) 分娩経過

- (1) 分娩経過中の管理 (分娩監視装置装着、内診) は概ね一般的である。
- (2) 妊娠 39 週 1 日、胎児心拍数陣痛図で胎児心拍数低下と判断し、酸素投与および小児科医師への連絡を行い、子宮底圧迫法を実施したことは一般的である。
- (3) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。

### 3) 新生児経過

新生児の管理は一般的である。

## 4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

- 1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項  
なし。
- 2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項  
なし。
- 3) わが国における産科医療について検討すべき事項
  - (1) 学会・職能団体に対して

原因不明の脳性麻痺の事例集積を行い、その病態についての研究を推進することが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して  
なし。